

日 時：平成 年 月 日（ ）
 場 所： 小 学 校
 対象学年： 年 組 名
 指 導 者： (学級担任)

1 単元名 道案内をしよう (Lesson 4 Turn right.)

2 単元について

(単元観)

本単元は、道案内をする活動を通して、“Where is ○○?”、“Go straight.”や“Turn right.”などの表現を使う場面が設定されている。その中で児童の生活になじみのある「コンビニ」や「デパート」などが英語と日本語とでは表し方や発音が異なることに気づかせ、目的地への行き方を尋ねたり、方向や動きを指示する表現に慣れ親しませる。そして、分かっていることを尋ねたり答えたりする道案内ではなく、お互いに情報のギャップを持ち、尋ねる必然性や目的を持った活動を取り入れることで、自分の案内が相手に通じた、相手の説明が理解できたというコミュニケーションの楽しさを味わわせ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことをねらいとする。

(児童観)

(指導観)

第1時では5年で学習した“What’s this?”を使って建物の言い方を導入し、おはじきゲームやステレオゲームなどで聞き慣れさせる。第2時ではMake pairsゲームで建物の言い方に言い慣れ、指導者がデモンストレーションしながら目的地への尋ね方や道案内の仕方を導入し、サイモンセズで方向や動作を指示する表現に聞き慣れさせる。第3時では建物絵カードを使って道案内をする表現に慣れ親しみ、第4時では教室を町に見立てて、実際に道案内をする活動を行い、道を尋ねる時には“Excuse me.”と声をかけたり、教えてもらったら“Thank you.”とお礼を言うこと、また道案内できなくても“I’m sorry. I don’t know.”と言うことなど気持ちの良いコミュニケーションを心がけるよう支援する。そうすることにより友達との関わりが深まり、安心して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成できると考える。

(他教科との関連)

特になし

3 単元目標

○教科の指導目標

- ・積極的に道を尋ねたり、友達に道案内したりしようとする。
- ・目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。
- ・英語と日本語とでは、建物の言い方が違うことに気づく。

○キャリア教育視点でのつきたい力

- ・英語で道案内する活動を通して、今学校で学んでいることと自分の生活とのつながりを考える。

【キャリアプランニング能力】

4 評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・積極的に道を尋ねたり、友達に道案内したりしようとしている。

【外国語への慣れ親しみ】

- ・目的地への行き方を尋ねたり答えたりしている。
- ・建物の言い方を聞いたり、言ったりしている。

【言語や文化に関する気付き】

- ・英語と日本語とでは、建物の言い方が違うことに気づいている。

5 指導計画（全4時間）

	● 目標 【】 Hi, friends の活動 【L】 = Let's Listen 【C】 = Let's Chant 【P】 = Let's Play 【A】 = Activity ○ その他の活動	評価			評価規準	評価方法
		コ	慣	気		
1	● 町中にある様々な建物などの言い方に興味を持ち、理解しようとする。 ○「What's this?」ゲーム 【P】おはじきゲーム ○ミッシングゲーム ○ステレオゲーム			○	(気) 英語と日本語とでは、建物の言い方が違うことに気づいている。	行動観察 ふり返り カード点検
2	● 建物などの言い方に慣れ親しみ、目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現を知る。 ○建物ビンゴゲーム ○Make Pairs ゲーム ○どんなやりとりをしているかな。 【C】Where is the station? ○サイモンセズ		○		(慣) 建物の言い方を聞いたり、言ったりしている。	行動観察 ふり返り カード点検
3	● 目的地への行き方を尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しむ。 【C】Where is the station? ○サイモンセズ 【L】どこに行くのかを書こう。 ○「どこにあるのかな?」ゲーム 【A】同じ町を作ろう。		○		(慣) 目的地への行き方を尋ねたり答えたりしている。	行動観察 ふり返り カード点検
4	● 積極的に道を尋ねたり友達に道案内をしたりしようとする。 【C】Where is the station? ○サイモンセズ ○道案内をしよう。	○			(コ) 積極的に道を尋ねたり、友達に道案内したりしようとしている。	行動観察 ふり返り カード点検